

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：34427

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380727

研究課題名(和文) 在日韓国・朝鮮人一世から二世への生活文化の形成および世代間継承の研究

研究課題名(英文) A Study of the Formation and Succession of Living Culture from First- to Second-Generation Zainichi Koreans

研究代表者

橋本 みゆき (HASHIMOTO, Miyuki)

大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：60725191

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、移民世代研究および生活文化研究として、在日コリアンの生活文化の混成形成の形および、生活文化の実践または解釈の長い過程における日本生まれの在日2世の意味づけの変化を、生活経験のライフストーリーから明らかにした。得られた知見は主に次の3つである。1つに、2世は、朝鮮半島の伝統文化を親から継承するだけでなく、彼/彼女が自ら築いた経済的基盤や人生観に基づいて新たな生活文化を形成してきた。2つ目に、そこに至るには家族内の葛藤、家族生活外での経験や出来事、再解釈の過程があった。最後に、それら各ライフストーリーは、在日2世が生きてきた戦後日本社会という緩やかな共通の文脈で捉えられる。

研究成果の概要(英文)：This research is an immigrant generational and living culture study. We examined mixed formations of the living culture of Zainichi Korean interviewees and changes to the meaning of living culture among the second generation during their long process of practice and interpretation, through 11 life story analyses. As a result, we obtained the following knowledge. First, the second generation has not automatically inherited the traditional culture of the Korean Peninsula but has formed a new living culture on the economic basis and way of life experienced in Japan. Second, there were painful family conflicts, experiences, and social events outside the family, along with a reinterpretation of their parents' roles, in such processes. Third, each of these life stories can be loosely understood to share a common context with postwar Japanese society, in which these people lived.

研究分野：社会学

キーワード：生活文化 2世 在日コリアン 継承

1. 研究開始当初の背景

(1) 世代交代が進んだ在日コリアンの各世代の構えを類型化した試みはよくみられる。世代による違いは、半ば自明視されてきた。また1世と3世については実証研究が蓄積されてきた。しかし一方で、2世は当該世代として研究対象になることが少なく、過渡的な存在のようにみなされがちである。2世を正面から捉えることなしに、世代間関係を描くことはできない。2世の経験は正当に評価され損ねてきたけれども、在日コリアンの日本定住化と日本の社会変動の時期と重なっており、社会的・文化的・歴史的に重要な意味を含んでいるはずである。

(2) また、在日コリアンの物質的基盤や生活の技法といった生活に密着した側面に焦点を当てた研究は多くない。日常生活のこまごました事柄は一般に、“つまらない雑事”ないし“私的なこと”と扱われがちである。いかにも“伝統的”とか“民族的”ではないものならなおさらである。生活文化というとき、そこには各人が自覚しているか否かを問わず、生活する上で必要なもの、意味のあるものとして蓄積された、人々の日常の暮らしの中に認められる有形、無形のモノ・コトが広く含まれる。またそれらは個々人が生活の中から生み出したものであって、「それが集団的に支持され、世代的に継承されたもの」であると考えられる(石川1998)。つまり生活文化とは、どこかに「在るもの」というよりも人間の生きる営みの中に見出される事柄であり、その本質的な研究対象はモノやコト以上に、それを実践するヒトである。

2. 研究の目的

本研究は、在日コリアンの移住世代の混淆的な生活文化形成と、続く在日2世の継承、それぞれについて、2世へのインタビューで得られた語りから明らかにすることを目的とした。関心の焦点は、日本で生まれ育った2世というヒトの行為や経験、ひいては彼/彼女が置かれた社会的・歴史的な文脈を理解することにある。2世に接近する手がかりに、その個人が関わったモノやコト、それをめぐる他のヒトとの関係(特に在日1世である親)や価値観といった生活文化がある。また実際の経験のほか、解釈の変化、社会的条件等への意味づけ、そしてインタビュー場面におけるこれらの語り方も分析の材料になる。

本研究が在日コリアンの生活文化に注目するのは、彼らの文化の本質的価値を賛美するためでも、逆に日本生活のなかで劣位に置かれた問題性を強調するためでもない。彼/彼女が現実生活の中で、出身文化の影響を受けながら、なんらかの固有性を含んだ生活文化を実践し意味づけてきた重層的な文化形成・調整の過程があると考えためである。

在日コリアンの生活文化にはどんな特質が認められるだろうか。なぜそのようなようになったのか。それはどのように評価されてきて、

時間が経過する中でどうなったのか。このように考えるとき、2世は要の位置にいる。出身社会の文化を身につけて移住した移住1世と、移住先で生まれた後続世代は、生活経験や知識、参照枠において決定的に異なっており、2世はまさにその繋ぎ目にいるからである。

3. 研究の方法

「2世であること」自体よりも、「1世から受容し3世に伝達する継承者たる位置にいること」、すなわち2世を生きてきたことに関心を向け、そうした2世を主たる対象者にインタビュー調査をおこなってきた。

具体的には、5つの地域(大阪、愛媛、神奈川、兵庫、韓国済州島)を主な調査地とし、さらに、事例ごとにまとめた「生活文化ものがたり」冊子を携えてインタビュー協力者を再訪した。全期間で、主たる研究対象である在日2世へのインタビュー調査11件のほか、その親または親族への発展的インタビュー5人、在日1世へのインタビュー3件、その他関係者への聞き取り4件余りを実施し、複数の角度から研究課題に迫った。

生活文化の継承という点、特に2世が成長し自立するまでの過程、時代的には1960年代から1970年頃までの世代交代期に集約される。自営業等の経済的手立てのほか、家での衣食住や子育て、そのなかでの民族言語使用および日本語習得、共同体や地域とのつきあい、故郷との関係保持といった、日本生活しながら形作られた生きる技術・知恵であり、それらが生まれ継承される際の価値認識(およびその変容)と、実践上の困難や工夫、周囲の人びととの関係および社会的条件などを検討した。

生活文化を論じる意義は、いかに民族文化的であるかを確認することではなく、在日コリアンの現実生活を反映した生活財や行動様式、価値観の具体的かつ多様な意味を理解することにある。日本生活への適応という局面があるため、民族の伝統文化とは限らない。生活文化の実践・継承の最たる場は、日常生活が営まれる空間=家庭であるだろう。そのため生活の技法や思想、物質的条件は、他の家族と共通のものもあれば、当該家族に固有のもの、一時的なものもある。しかしある程度繰り返して実践され、記憶されて、当時の自己や家族、在日コリアン集団の生活の現実と脈絡づけて語られたものに注目した。

4. 研究成果

研究の結果、見えてきたのは次の点である。すなわち、日本生まれの2世は朝鮮半島の文化を親から継承するだけでなく、彼/彼女が自ら築いた基盤や生活・人生観に基づいて新たな生活文化を形成してきたこと。そこに至るまでには家族内の葛藤、家族生活外での経験や出来事、再解釈の過程があること。そして個々のライフストーリーは在日2世の

生きてきた場＝日本社会という緩やかな共通性の上で捉えられることだ。

在日2世は生活文化を上世代から下世代に伝えるといった受動的な中継地点的存在などでは決してない。インタビュー協力者の多くは、親が実践した生活文化を概ね肯定的に振り返っている。しかしそうなるまでの間には、葛藤関係から親と距離を置いたり、朝鮮風の食事やしつけに不満をもつ時期があったり、独特の生活道具を見ても当時は意味が分からなかったりしたのである。認識が変わるのは、多くの場合、自ら生活・人生の経験を重ねて、親との関係が改善されたり、日本社会で朝鮮風の文化表出が以前よりもしやすくなったりしたことから再解釈された結果である。親との間の差異を自らの人生に客観的・主観的に位置づけるだけの精神的・物質的余裕ができたからでもある。1世に対する驚きや葛藤、関係変化という力動的な関わりを踏まえて、今度は自らが親になったときの3世への生活文化継承/非継承が語られた。

2世は、1世を積極的/消極的に参照しつつ、また日本生活する中では他の参照枠組みも併用して、自分の人生を確かに編んできた。(たとえば崔正美さんの事例では、祖先祭祀のやり方の話題で、聞き手の高正子が女性差別的ではない自宅でのやり方を紹介したとき、その儀礼には女性は参加「せんでもいい」と話したことが印象的だった。おそらく正美さんは、高が示した男女平等規範に抵抗したわけではなく、男尊女卑的な儒教儀礼にただ従うのをよしとするのでもない。亡くなった「その人を忘れずに」かつ「生きている人を中心に考える」続けるという解釈、つまり“うちのやり方、自分が大事だと思うポイント”の優位性が確固としてあった。)ここに生活文化の当事者優位性がみられる。すなわち専門家がどう言おうと、昔はどうであろうと、各家庭の生活者が自律的担い手であることへの意思が示された。その上で面倒な手間は省くといった取捨選択が、現実生活の中でおこなわれてきた。

すでに孫もいる年齢になった2世においても、生活文化の継承の意味は変化し続けており、これからも変化する可能性がある。(たとえば申真樹さんは、子どもの頃、在日1世の母の所作や食文化がかなり封印されていたが、それに気づかなかったという。しかし成長して朝鮮文化について知識が増え、子育てもほぼ終わった今、当時母が「かわいそやった」と想起する。)時間の経過を含む語りを通して確認できた、2世における生活文化の意味の変容可能性を、重要な知見として強調しておきたい。他方で、語られないことについては当然ながら可視化できない。今後何かのきっかけや時機が来たときに生活文化が新たに語られ、新たな理解が付け加わる可能性がある。

本研究の具体的成果としては、研究論文・

研究ノート計19本、学会発表10件、書籍化(アンソロジーに収録)4点、そのほかインタビュー事例をまとめた個人別小冊子9冊(さらに2冊準備中。個人情報をもとめたものである性質上、すべて非公刊)を作成した。また、出版企画を立ち上げたが、諸般の事情で公刊はまだ実現していない。なおウェブサイト博物館で国内外に発信することを当初考えていたが、まだ実現に至っていない。多くの人に関心を持たれうる先駆的なテーマおよびアプローチの研究だと考えるので、国内外での研究成果発信について、方法や範囲の検討を含め、今後引き続き可能性を探っていく。



【写真：生活文化ものがたり個人別小冊子】

文献

石川 実、1998、「生活文化のとらえ方」石川実・井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社

5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計19件)

猿橋 順子・柳 蓮淑、2018、「ある在日コリアン二世女性のライフストーリーにおけるジェンダー観の再編 民族・知・パワーとのダイナミズム」『ジェンダー研究』21、査読あり。

猿橋 順子、2018、「生活文化と民族文化の親子間継承 在日コリアン二世のライフストーリー・インタビューから」『青山国際政経論集』100:115-37、査読なし。

橋本 みゆき、2017、「仕事観の継承 渡日1世の親から、朝鮮人Aさん、そして娘へ」『応用社会学研究』立教大学社会学部 59:129-40、査読なし、129-140info:doi/10.14992/00014698

猿橋 順子、2016、「アイデンティティの語りと継承言語の位置付け ある在日コリアン二世女性のライフストーリーのポジショニング理論分析」『ことばと社会』

18:35-60、査読あり。

猿橋 順子・高 正子・柳 蓮淑・橋本 みゆき、2015、「在日コリアン1世・2世女性のライフストーリーに見る時間表現の談話機能 文化談話分析からの考察」『多文化関係学』12:21-37、査読あり。
https://doi.org/10.20657/jsmrejournal.12.0_21

橋本 みゆき、猿橋 順子、高 正子、柳 蓮淑、2015、「食における在日韓国・朝鮮人1世・2世の生活文化継承 2014年大阪調査からの予備的考察」(研究ノート)『アジア太平洋研究センター年報』12:32-9、査読なし。
http://www.keiho-u.ac.jp/research/asia-pacific/pdf/publication_2015-06.pdf

〔学会発表〕(計10件)

高 正子、2016、「祖先祭祀の世代継承 済州島 S 村から愛媛へ受け継がれる生活文化」第20回国際高麗学会日本支部学術大会、自由論題発表。

柳 蓮淑、2016、「在日コリアン2世代女性の生活文化継承と世代間アイデンティティ」ASKA(社)在外韓人学会。

〔図書〕(計4件)

Junko Saruhashi, forthcoming, John Benjamins, "Zainichi Korean: Reconsidering interview methods." In Goro Christoph Kimura and Lisa Fairbrother (Eds.) *A language management approach to language problems: Integrating macro and micro perspectives*.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 みゆき (Hashimoto Miyuki)
大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員
研究者番号：60725191

(2) 研究分担者

猿橋 順子 (Saruhashi Junko)
青山学院大学・国際政治経済学部・教授
研究者番号：10407695

高 正子 (Koh Jeongja)
神戸大学・国際文化学部・講師
研究者番号：10407695

柳 蓮淑 (Yu YunSook)
大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員
研究者番号：20725197